

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

施策 生涯学習の充実

基本事業 生涯学習機会の充実

事業名 **聚楽学園**

[0451]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果

対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 蒼樹大学を卒業した市民	手段	(事務事業の内容、やり方、手段) ・蒼樹大学等を卒業した学生による自主運営の8年制。卒業後4年の聴講生制度あり。 ・5月～3月まで毎月1回定例学習会を開催。希望者は選択別に専攻講座を月1回受講 ・野外研修(日帰り) 研修旅行(1泊2日) 文化祭などの特別行事の開催 ・年度末に記録文集を発行
	意図		(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) ・高齢者ひとり一人が自立と連帯の精神に満ちた豊かで活力のある生活の維持を図るとともに、異世代間の交流、仲間づくりを促進し、習得した知識や技術経験を活かした地域社会への参画を促進する。

事業量・コスト指標の推移

区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	蒼樹大学を卒業した67歳以上の市民数	人	54	55	55	60
対象指標2						
活動指標1	講座等開催数	回	65	65	65	65
活動指標2						
成果指標1	学生数	人	385	384	394	390
成果指標2	出席率	%	66	65	70	65
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	643	639	646	668
正職員人件費(B)		千円	2,094	2,090	2,075	2,082
総事業費(A)+ (B)		千円	2,737	2,729	2,721	2,750

費用内訳

21年度	報償費 588千円、旅費 29千円、需用費 29千円
------	----------------------------

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	超高齢化時代の到来とともに、高齢者の生きがいづくりと学習成果を生かす地域社会活動への参画がより一層求められている。
--------	--	-------------	---

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

平均余命の伸びなどにより高齢人口は増加しており健康で活躍する事のできる人材も多い。学習成果を生かして地域活動や団体活動にかかわることなど、人材資源の活用幅を広げられる効果があり妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

幅広い分野の学習ニーズに対応しており定例学習会や選択幅の広い専攻講座など、多彩な学習機会の提供により受講者の地域活動への参画意欲も高まっている。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

自主的なサークル活動の結成や役員等の主体的・積極的な活動が見られるようになってきている。
高齢者の自己実現が図られ、様々な形の仲間づくりやコミュニケーションの場、機会が広がっている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

学習内容の見直しや積極的な自立運営への誘導が必要である。
学習成果を生かし、地域社会に還元する方向付けにより成果・向上が期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

主な予算である講師謝礼は、多様化する学習要望に応えるべく、多様な分野からの講師の招聘費であるが、できるだけ公的な機関からの活用を優先するなど、既に削減の手立てを講じている。
専攻講座の地区別開催など会場の分散により会場使用料や開催日の職員配置人数の減少が見込める一方、講師の増や所要時間の増加を招く可能性があり創意工夫が必要である。